

会 議 名	第 3 回 港区子ども・子育て支援事業計画策定に係る調査及び支援業務委託事業候補者選考委員会
開 催 日 時	平成 3 0 年 8 月 1 日 (水曜日) 午後 1 時 0 0 分から午後 3 時 2 0 分
開 催 場 所	港区役所 子ども家庭支援部会議室
委 員 員	有賀委員長、西川副委員長、山越委員、藤原委員、山本委員
事 務 局	子ども家庭課子ども家庭係
会 議 次 第	1 開会 2 審議事項 (1) 二次審査について (2) 事業候補者の決定について 3 今後のスケジュールについて 4 閉会
配 付 資 料	[席上配付] 資料 1 二次審査スケジュール 資料 2 二次審査表 資料 3 一次審査集計表
会議の結果及び主要な発言	
A 事業者 A 委員 B 委員 A 事業者 C 委員	<p>1 開会 (配付資料の確認、進行説明)</p> <p>2 議題審議 審議事項 (1) 2 次審査</p> <p>(A 事業者入室) (プレゼンテーション実施)</p> <p>ヒアリングを始める。</p> <p>B 委員 人口推計について、どれくらいの規模のマンションが建つかなどの情報は、不動産業界とコネクションがあるのか。</p> <p>A 事業者 情報は、区に申請されているデータがメインになる。それと共に、不動産経済の調査結果や、不動産会社の各社 HP 等の情報などから、可能な限りデータをとり、それを積み上げて密接な人口推計に結び付けていく。</p> <p>C 委員 提案書を確認すると、松戸市でも実績があるが、課題 2 の手法を用いて実施したかどうか。また、かい離がでたのかどうか。</p>

A事業者	<p>今回の提案は、豊島区が消滅可能性都市といわれた時期に人口推計の支援をした際の手法を取り入れた形。実際は、過去の推計結果を検証する作業が必要になる。まずはなぜ、誤差が生じたのかを検証した上で、今回の手法について検討し、精緻な人口推計に結び付けていきたい。</p>
C委員	<p>港区でも人口推計をやっていて、それとは別に、新たに人口推計を行うのか。港区の人口推計を基にするのか。</p>
A事業者	<p>今回は、港区の人口推計が基本になると思う。もうひとつ、弊社も並行して実施し、もし、そちらの方がより良いとなれば、使っていただけると有難い。</p>
D委員	<p>23区の比較は、具体的にはどんな方法か。アイディアがあれば、教えてほしい。</p>
A事業者	<p>基本的には、統計等で取れるデータの分析になる。例えば、人口10万人当たりで割り返した比率をだすなど、人口の規模に関係なく、範囲を明確にした上で分析するなど、既存のデータを上手く活用する形になる。</p>
D委員	<p>業務の取り組みの体制で、厚生労働省の業務を来年の3月まで、同時に携わる方が2人いるが、港区の業務にどのくらいの割合で携わっていただけるのか。</p>
A事業者	<p>厚生労働省の業務は、昨年から継続してやっている業務になる。だいたい研究員は年間で5本～8本携わるのが通常である。弊社は、この分野についても、色々なメンバーがおるので、それぞれ業務分担しながらしっかりと十分な支援を行う。</p>
E委員	<p>無償化への方針とはどのようなイメージか。</p>
A事業者	<p>8月に、国から方針が示される予定なので、そこを踏まえてとなるが、今現在の想定では、まず、無償化というものをしっかり説明した上で、その場合に、「あなたは、移動したいと思うか。」という設問が必要になる。その理由をしっかりと把握していくことで、どれくらいの移動があるか分析して、推計に生かすことが必要。また、港区の場合、対象児童がどのくらいいるかを把握し、データ上のインパクトがあるかを分析した上で、調査設計をしていきたい。</p>
A委員	<p>ニュートラルネットワークモデルの施行について、御社としてもこれからという試行段階で港区の委託事業に数値を盛り込んでしまうのか、確認したい。</p>
A事業者	<p>基本は、区の人口推計と同時並行で、一般的な人口推計を弊社がお手伝いしていくことをベースにしている。ただ、それとは別に、おそらく例外という事が出てきたときに、そういったものを用いて、物事を考えていくやり方。</p>
A委員	<p>明確にしておきたいが、あくまでも御社にとっての試行という事で、今回の委託の経費の中にこの試行の経費を含まないということ、区と細かく精査の上で行うということやってほしい。ヒアリングを終了する。</p>

A 委員	<p>(A 事業者退出)</p> <p>(C 事業者入室)</p> <p>(プレゼンテーション実施)</p> <p>ヒアリングを始める。</p>
B 委員	<p>課題 2 について、高層マンション等港区では建設が多いが、今後の見通しとして、例えばマンションの価格で高収入の世帯が入るようなマンションであれば、保育園に行く人が少ないであろうとか、そういった部分をニーズ調査の要素として入れる考えがあるか。</p>
C 事業者	<p>どのような子育てを希望されるかというところが、家庭の事情によって大きく分かれてくる場所なので、そのあたりは、しっかり把握していく必要がある。収入や働き方についても重要になってくるので、長期的にどのような働き方を想定されているのかという事について調査の中に組み込んで把握していく。</p>
C 委員	<p>御社は、これまでに、子育て支援事業計画の業務に携わったことがある経験が提案書から読み取れるが、これまで、このような手法を使って、見込み量として良い数値が出たという経験はあるのか。</p>
C 事業者	<p>調査では、いかに潜在ニーズを把握するかが難しいところ。港区でパートタイムや短時間勤務の方向けの支援があるが、そういった部分も潜在的なニーズの把握について工夫が必要。</p>
C 委員	<p>最新の 2 3 区や東京都の情報を持っているとのことだが、何か提案事項があれば教えて欲しい。</p>
C 事業者	<p>文京区の例では計画の策定で、やはりかい離が大きくなってしまいうということとで毎年、人口推計や保育需要について計画の見直しを行なっている。他の自治体も独自に工夫しているところもある。今後情報収集も進めながら参考としていく。</p>
D 委員	<p>3 歳児以降の分析の記載があるが、特にアプローチの方法について考えはあるか</p>
C 事業者	<p>3 歳児以降の保育園からの転出について、幼稚園などに移動したいと考えているか、なぜ移動したいのかということを探って聞いていくことでなぜ保育園からの転出が多いかを把握していく。</p>
E 委員	<p>3 歳児以降は幼稚園に進学する児童が多いとあるが、他区の事例で実績としてあるのか。</p>
C 事業者	<p>港区の情報収集をしていた時に、高収入世帯の方が多いのかもしれないが、幼</p>

	<p>稚園や認可外の付加価値のある施設を希望するなどの情報があり、加味している。</p>
A 委員	<p>体制は5名とのことだが、バックアップ体制のところはどうか。会社としてフォローする体制があれば教えてほしい。</p>
C 事業者	<p>他の業務と兼務する補助者を2名配置したい。アンケートの電話の対応などで適宜バックアップ体制を取りたい。</p>
A 委員	<p>業務を進める中で、区と協議をしながら進める必要があるが、どのようなところで協議をしながら進めていく必要があるか。想定の部分があれば教えてほしい。</p>
C 事業者	<p>担当者の方とはその都度、電話、訪問打合せ等で進めさせていただきたい。</p>
A 委員	<p>特に子どもの人口は減少傾向にあるが、港区は逆に増えているが、そのことについて、見解を。</p>
C 事業者	<p>都心回帰という動きが顕著に出ている。共働き世帯で収入が二人とも高い世帯が職場に近い環境を求めて引っ越してこられている。共働き世帯が増加するから待機児童の問題があり、その傾向は今後も増加していくのではないか。</p>
A 委員	<p>ヒアリングを終了する。</p> <p>(C 事業者退出)</p> <p>D 事業者入室)</p> <p>(プレゼンテーション実施)</p>
A 委員	<p>ヒアリングを始める。</p>
B 委員	<p>回収率向上策で、回収先を区にするとあるが、返送された封筒は区の職員が開封するのか。</p>
D 事業者	<p>郵便物はそのまま置いておいていただき、弊社のメンバーが直接取りに行くというやり方。</p>
C 委員	<p>量の見込みの算出方法について、これまでの経験を踏まえて、算出した数値について、実際はかい離がどうだったか、後追いはしているか。</p>
D 事業者	<p>算出した数値について、その後どうかというと、かい離は概ね1割程度出るか出ないかを推移していた。アンケートではニーズ量が過大に出るが、そこまでの利用はされないと実感している。アンケート用紙にサービスに対して料金を横に書くことで、そのくらいの金額がかかるなら利用しないということもあるので、工夫をしながら進めたい。</p>

C委員	算定するにあたって、ベースに区の人口推計も入っているか。
D事業者	区の人口推計をベースにしている。1才刻みの推計が出されているのがベースになっている。
C委員	それとは、別に独自で見込まれるものはあるか。
D事業者	可能であれば、内部で使われているものをベースにしていければよいかと思う。人口ビジョンや人口推計も実績があるので、改めてやることになっても、問題はなくやれる。
C委員	ニーズ量の算定で、補正の考え方で、補正をかけるかどうかはどのように判断していくのか。アイデアを教えて欲しい。
D事業者	今までの実績値の乖離と今回のニーズを見て、比較の実績値に近くを補正するのが、一つの答えになっている。港区の子ども・子育て会議の議論もあるので、いくつかの複数のパターンを説明して、提供する中で、区の実情と子ども・子育て会議との間で決めていくのが望ましいと思う。
D委員	育児休業制度の改定など制度の変化が、ニーズの補正に影響があるのではないかと。どのようにアプローチしていくのか、またはアンケートについても、アイデアがあれば、教えて欲しい。
D事業者	保育料の無償化については、アンケートで、全ての人が無償になるわけではないことをきちんと説明し、無償化の対象を説明した上で、そうなった場合にサービスを利用するかどうか、という聞き方をするのが1つの考え方。アンケートを通じて港区のサービスを知ってもらうきっかけになるのではないかと思う。
D委員	幼児教育の無償化について、こういう影響があるのではないかとか、想定されるものがあれば、聞きたい。
D事業者	無償化になることによって、保育園よりも幼稚園に預けていこうとか、私立も含めてそれなりにニーズの動きが予想されるのではないかと思う。だが、必ずしもその割合はそう多くはないと考えており、推計の中での差も大きくないと思う。
E委員	多言語化についての説明を。また、アンケートの調査の返信先をあえて区にするのは、他の実績で返信先を区にしないと回収率が低いなどのことがあっての提案なのか。
D事業者	対象の方がどの言語で答えられるか情報がないと、多言語すべてに対応できない。英語だけなら対応可能。 アンケートの回収先については、弊社を宛先にすると、区役所に問い合わせが増える。区を回収先にすると、回収率も上がるし、区民の信頼も得られる。
A委員	やさしい日本語に対しては、考え自体が新しいので、十分回答の結果がえられ

	<p>るのか。</p>												
D 事業者	<p>対象は大人だからと思わずに、小学生・中学生等どんな人が読んでも分かるような日本語の使い方をするよう対応していければと思う。</p>												
A 委員	<p>やさしい日本語に、作り変えをするときに難しいので、伝えきれるかどうか。今回のニーズ調査は、どういうところに配慮して文章を作っていくか。</p>												
D 事業者	<p>具体的なサービス名、事業名等で、外国語にしてしまうと逆に分かりにくいかなと思うので、そこは日本語ベースにしたい。言葉を変えることによって、回答がブレないかとの心配はあるが、齟齬がないように社内でプレテストもやりながら実施していきたい。</p>												
A 委員	<p>アンケートの回収先を区にする件について、区の負担が増えないよう工夫や考えはあるか。</p>												
D 事業者	<p>回収先を区にすることで、料金受取人払いの手続きがあるが、その手続きは弊社ですべて行う。届いた調査票については、1日、2日おき位に取りに伺うことを考えているので、区の負担はなく、逆に、本当に区がやっている調査かなどの問い合わせは減ると考える。</p>												
A 委員	<p>分析について、何か特徴的なところはあるか。</p>												
D 事業者	<p>回答者の属性、家族構成による分析、過年度との比較などを行っていく。国の手引きの設問にもよるが、アンケートの回答数が少ないところに誤差がおきることがある。誤差が大きく出てしまうところについて、含みを持たせた分析を行っていく。</p> <p>ヒアリングを終了する。</p> <p>(休憩)</p> <p>2、議題審議 審議事項(2) 事業候補者の決定について</p>												
A 委員	<p>事務局から点数の集計結果を発表する</p>												
事務局	<table> <tr> <td>A 事業者</td> <td>一次審査 734 点、</td> <td>二次審査 380 点、</td> <td>合計 1,114 点</td> </tr> <tr> <td>B 事業者</td> <td>一次審査 685 点、</td> <td>二次審査 375 点、</td> <td>合計 1,060 点</td> </tr> <tr> <td>C 事業者</td> <td>一次審査 646 点、</td> <td>二次審査 370 点、</td> <td>合計 1,016 点</td> </tr> </table>	A 事業者	一次審査 734 点、	二次審査 380 点、	合計 1,114 点	B 事業者	一次審査 685 点、	二次審査 375 点、	合計 1,060 点	C 事業者	一次審査 646 点、	二次審査 370 点、	合計 1,016 点
A 事業者	一次審査 734 点、	二次審査 380 点、	合計 1,114 点										
B 事業者	一次審査 685 点、	二次審査 375 点、	合計 1,060 点										
C 事業者	一次審査 646 点、	二次審査 370 点、	合計 1,016 点										
A 委員	<p>各委員から講評をお願いします。</p>												
C 委員	<p>まず、A事業者は、人口推計の手法について具体性があったというところと、説明者の対応、やり取りが丁寧だったところを評価した。今後、事業を進めるに</p>												

D 委員	<p>あたって、担当者の対応は大事だと思う。 C事業者は、手法について一般論が多く、港区としてどうかというところまでの提案にもの足りなさを感じた。 D事業者については経験値はあり、やさしい日本語の活用など港区の動向を研究していて、独自性はあったが、実現性に不安があり、点数を落とした。</p> <p>A事業者については、業務の理解度では、区の状況を適確に把握していた。ただ、実現性について、担当者が厚労省のプロジェクトにかかわっており、しっかりとした支援が可能ということだが、標準的な評価とした。 C事業者については、3歳以上の空き状況の分析について評価した。体制も5名と評価できる。 D事業者の内容については、標準的だが、ニーズ調査の補正の手法と、育児休業の視点が入っていた点は、評価できる。</p>
E 委員	<p>A事業者については、ニーズ調査をより統計的に有意な数字を取るため多めのサンプルを取るなど具体的で評価できる。人口推計については、区の人口推計についての課題もあるという中で、期待もしたいが、実現性の部分で若干不安視している。 C事業者については、制度の理解、対応は一般的。具体的な区の実態について、他の事業者に比べて、若干理解度が足りないと感じた。 D事業者については、アンケートの対応が具体的であり、質疑応答の中で、港区の施策についてよく理解していると感じた。</p>
B 委員	<p>A事業者とC事業者に高い数値をつけている。Dはやや低め。 A事業者については、実務担当者の説明は、課題認識を適確にとらえており、受答えも丁寧で誠実さが伝わってきたと思う。提案内容も、ニーズ調査数を増やすなど、意欲的で評価できる。 C事業者は、質疑応答ではプラスの回答があり、こちらが困ったときに色々相談すれば、アイデアが出そうで好感が持てた。 D事業者は、提案を絞り込んだ方が良かったのではと感じた。説明が回りくどい印象があった。説明はなかったが、回収率向上のために調査票にボールペンを同封する提案については、区の税金の使途として区民感情を考えると評価は低くなった。</p>
A 委員	<p>A事業者は全体的にバランスが良い。実績が豊富で質問の受け答えはかなりしっかりしている。3者の中では一番区の状況を適確に把握していると感じた。質疑の中で評価した点は、仕様がないこと、判断が必要なことについては、区と協議して決定していくという姿勢を明確に打ち出しており、その姿勢は一緒に仕事を進めていく上で評価できる。 C事業者は、港区という地域の理解が他に比べて低いのではないかと感じた。回収率向上などかなり細かな提案をしており良好な成果が期待できると感じた。受け答えもしっかりしていた。 D事業者は、国の動向をしっかり把握していた。また、ニーズ調査の補正についての提案は有効だと感じた。ニーズ調査の返送先を区とし、苦情発生時の対応も区が行い、事業者は区の苦情対応をフォローするという提案については、区の負担軽減にならないと思い、評価を低くした。</p>
A 委員	<p>ただいまの講評を受けて、点数の変更はないか。</p>
全委員	<p>なし</p>

A委員	<p>それでは、港区子ども・子育て支援事業計画策定に係る業務委託事業候補者はA事業者に決定してよろしいか。</p>
全委員	<p>～ 了 ～</p>
A委員	<p>それでは決定とする。事務局から、A事業者の事業者名を発表する。</p>
事務局	<p>港区子ども・子育て支援事業計画策定に係る調査及び支援業務委託事業候補者は、「株式会社日本能率協会総合研究所」となる。</p>
A委員	<p>次点について、C事業者として決定してよろしいか。</p>
全委員	<p>～ 了 ～</p>
A委員	<p>それでは、C事業者を次点とする。</p>
事務局	<p>3 今後のスケジュール (今後のスケジュールについて説明)</p> <p>4 閉会</p>